

はにい

プロへの道

平成24年10月11日

教室がすっかりフォトスタジオです。

「ボビー！もっとそちに寄せてくれ。」指導しているのはプロのカメラマン。生徒は一人ひとりに名づけてもらったニックネームで呼び合い、撮影がリズムよく行われています。

撮った写真はそのままプロジェクターでスクリーンに写し出されていて、その場で確認していきます。



こちらは、市内の漬物屋さんが大量の野菜を持ち込んで、漬物づくり。

黒板には、

「日本の食文化。今日の食材は「キャベツ！」

うまい！！社長のこだわり。元気にあいさつ！！」

と勢いよく書かれています。

こちらの教室は、マネキンでヘアスタイル・アレンジ。

指導者がたくさんいます。と思ったら、みなさん専門学校の学生さんたちでした。

「ここを引っ張ると痛いからね。まあ、今日のお客さんは痛いって言わないですけど。」

中学生は顔を近づけて食い入るように見えています。



この学校をはじめとして、市内の学校では、このような職業体験が毎年盛んに行われています。

地域を担う人材は地域で育て、地域で活躍できる土壌を築く必要がある。そのためには、地域の大人が積極的に子どもたちの教育にかかわり、夢を与えていこう。

この授業は、10年後、20年後に、地域を担う人づくりをめざして、地域で企画されたプロジェクトなのです。

地域の大人たちがここまで学校に関わるのはなぜなのでしょう。

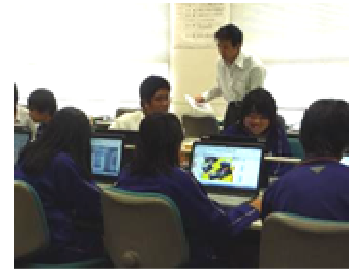


女子に人気のネイルアート。一人ひとりに道具が用意されています。

ネイルアートといっても、ただ飾ればよいというものではありません。その人の職業やライフスタイルに合ったネイルアートがある。

パソコン教室も職業体験の会場になっています。ここではデザインについて、プロの技を学んでいます。

今日のテーマは「オリジナルカレンダーを作ってみよう!」。生徒たちがこれからの生活の中で、あるいは様々な教科の学習の中でも、すぐにでも使える技術です。



木工室では、大工さんたちが一人ひとりの手を取って、木の見方、のこぎりの使い方、釘の打ち方、と職人の技を惜しげもなく伝えていきます。

「そこは力で押すんじゃなくてね、ちょっと軽く握ってみてごらん。いいか。」

学校の教室というより、町工場の様相を呈しています。

外へ出てみましょう。

おや、大きなハサミで植木を剪定している生徒がいます。

「CLEAN UP GREEN at my School !」という講座名がつけられています。テーマは、学校の緑をきれいにしよう。



これだけたくさんの職種について、講座を準備するのはさぞ大変だったことでしょう。

商工会議所の菊池さんはこう言います。

「そうです。学校の先生が足を運んでこれだけのお願いをして歩いたとしたら、それは大変なことです。しかし、学校の先生たちには教科の授業という本業がある。子どもたちのために、先生たちにはその授業に専念していただきたい。子どもたちのため、未来のために、地域で支えあうことが大事なことです。そういう思いもあって、商工会議所ができることをさせていただいているんです。」



こちらは自動車整備。自動車が持ち込まれています。

「おい、そうやったらダメなんだ。貸してみな。」全員身を乗り出して覗き込みます。「ここをこうして、奥までさす。わかったか。」

「はい!」

みんないい返事。プロへの道は厳しいのです。

かながわ元気な学校づくり通信 『はいに』とは、
学校が元気になるように…

先生の仕事を受けとる

学校に携わる大人たちがしていることを受けとる

そして、もちろん子どもたちの育ちを受けとる

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp